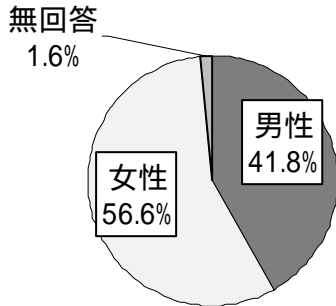


調査結果

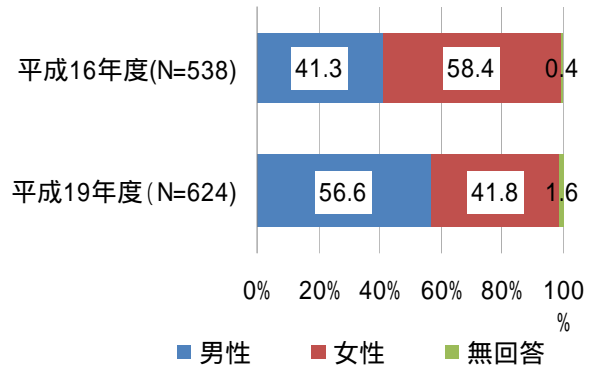
1. 調査対象者の属性

基本的属性は以下の通り。

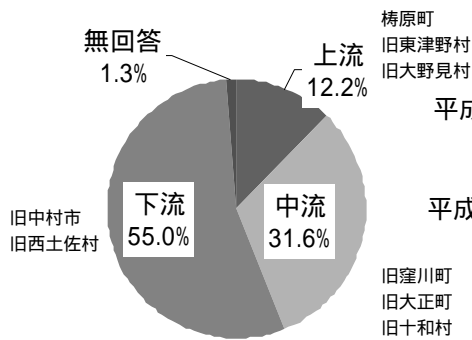
性別 (N=624)



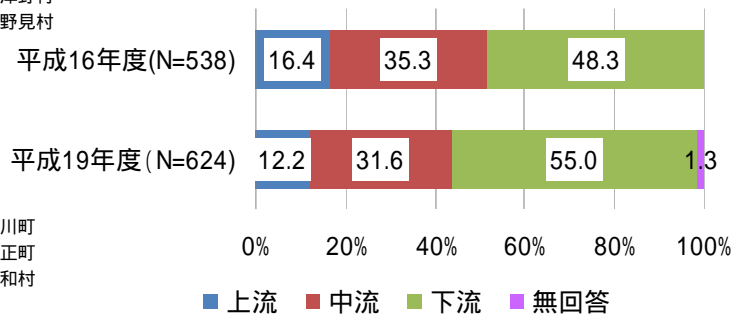
性別 (前回との比較)



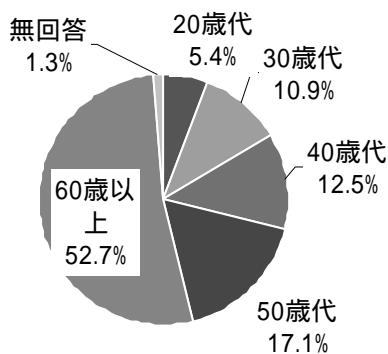
居住地域別 (N=624)



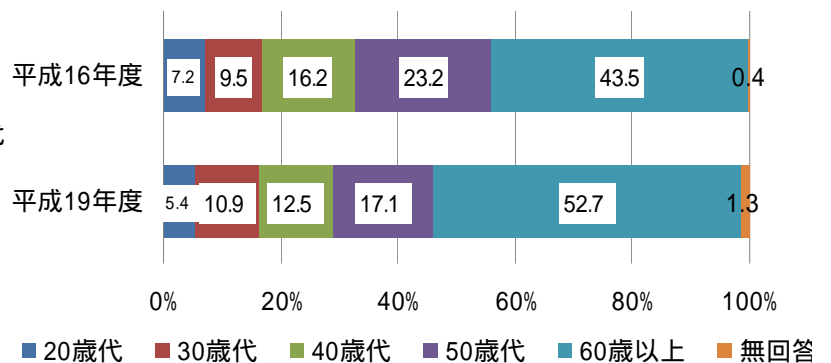
居住地域別 (前回との比較)



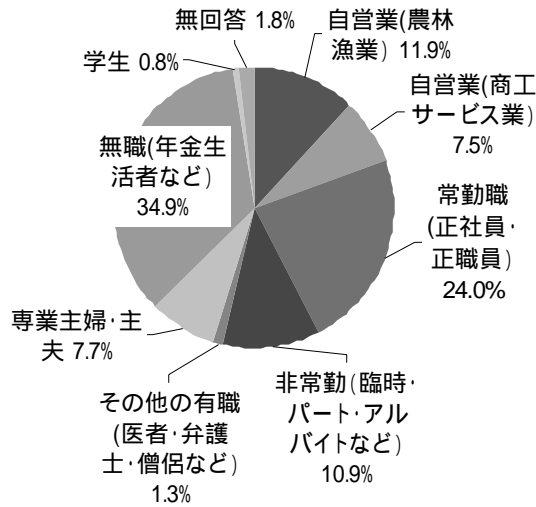
年齢 (N=624)



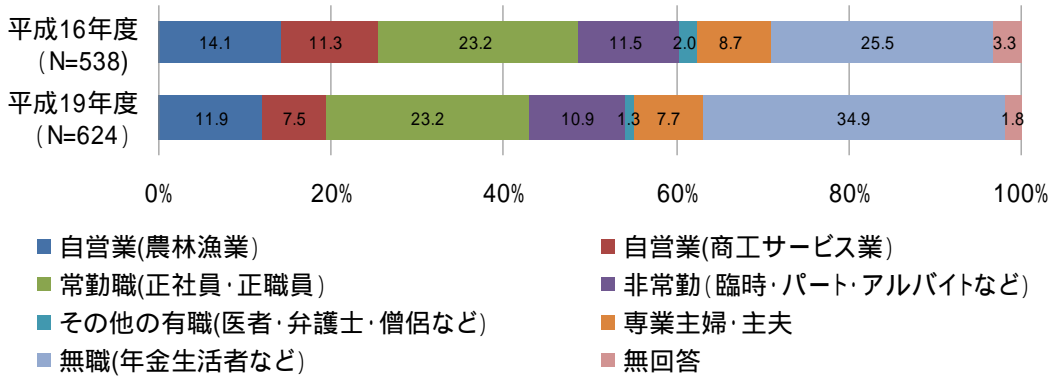
年齢 (前回との比較)



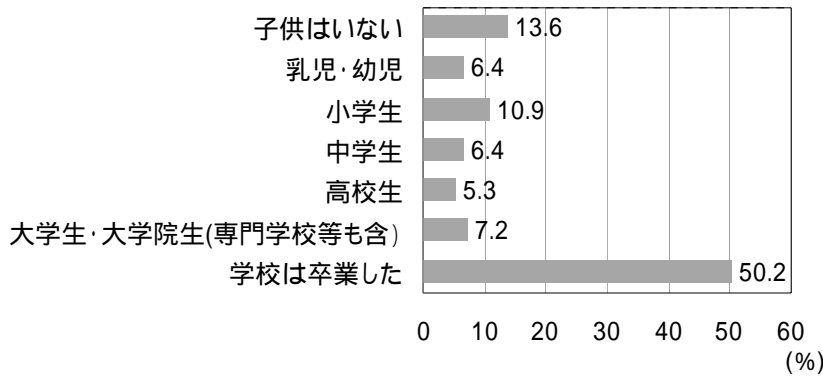
職業別 (N=624)



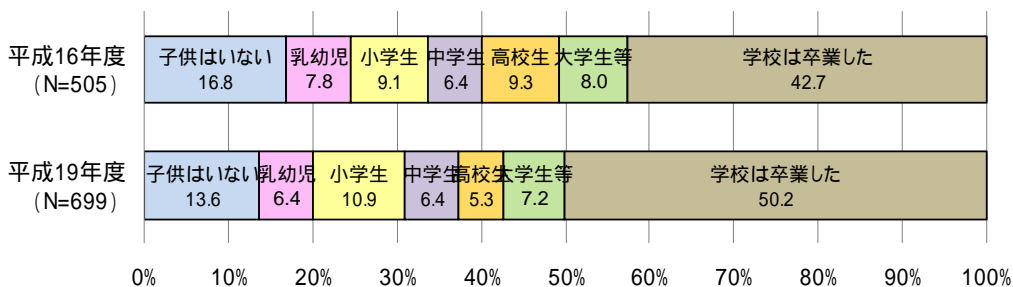
職業別 (前回との比較)



子供の成長段階 (N=699) (M.A)



子供の成長段階 (前回との比較)



2. 総括

今回の調査で明らかになったことは、前回調査と同様、四万十川に住む人々は自然との共生を図りながら、川と関わりあいのある豊かな生活をしていることである。同種の全国調査と比較しても、生活全般に関して四万十川流域の人々の満足度は高い水準となっていた。いかにここに住む人々が、環境に対する意識を持ち、地域に愛着を感じながら生活しているかが、このことから明らかである。

昨今の少子高齢化、厳しい経済情勢等で広がる地域間格差により、地方が置かれた状況は厳しい。高知県もその影響をまともに受け、医療福祉、出産、雇用面における不安は増している。四万十川流域においても例外ではなく、今回のアンケート調査でもその影響は端々に表れる結果となった。

そのひとつ、本調査において顕著にみられた高齢化の問題については、今後のアンケートやモニタリング方法をどのように進めるかに影響する。また、満足度が前回調査と比較して下がっていた雇用や医療、交通の問題については、県だけの政策で解決できるものではない。地域住民、民間企業、学術機関等との横断的な連携と協力なしでは、成果の向上が難しい項目である。その意味で、本調査の指標等を参考にしつつ、限られた予算の中でいかに効果的かつ効率的に施策を展開していくかが、今後の課題といえる。

いずれにしても、条例がめざす自然環境との共生、生活満足度の充足は、四万十川流域に限らず、高知県民すべてに求められている。そういった観点からも、今後も先進的な取り組みや継続的なモニタリングを行ないながら、より良い四万十川流域圏実現に向けての取り組みを進めていくべきといえる。

3. 個別総括

3-1. 四万十川との関わり

[この1年間に仕事以外で川に出かけたことがあるか]

出かけたことが「ある」と答えた人の割合は62.9%（前回調査より上がる）

ある」と答えた人に、その「頻度」、「誰と出かけたか」、「川で何をしたか」について聞いたところ以下の結果が得られた。

「頻度」

43%が「月に1~2回くらい」以上は川に出かけている（前回調査より下がる）

「誰とでかけたか」

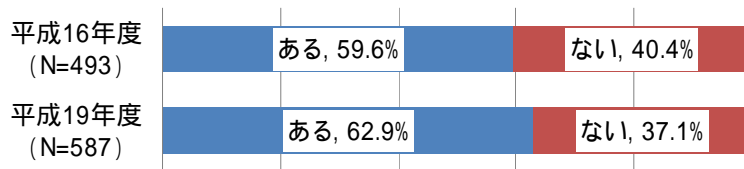
「ひとり」48.1%、「家族（小学生以下の子供を含む）」42.1%、「友人、知人」

「川で何をしたか」

「散歩、ジョギング、散策」63%、「釣り、魚とり」62.7%、「水泳、水遊び」54.8%

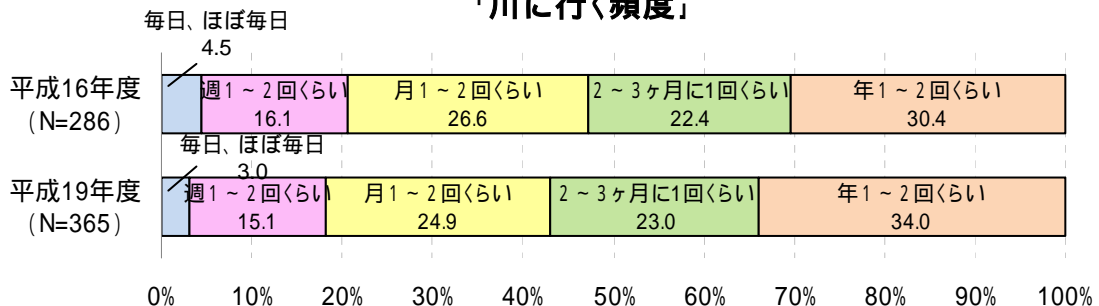
このことから流域に暮らす人の6割以上が川に出かけ（うち4割以上の方が月に1回以上川に出かけている）、散歩やジョギング、釣り、魚とり、水泳、水遊びなど多様な方法で川とふれあい、余暇を楽しんでいることが分かる。

「この1年間に仕事以外で川に出かけたことがあるか」

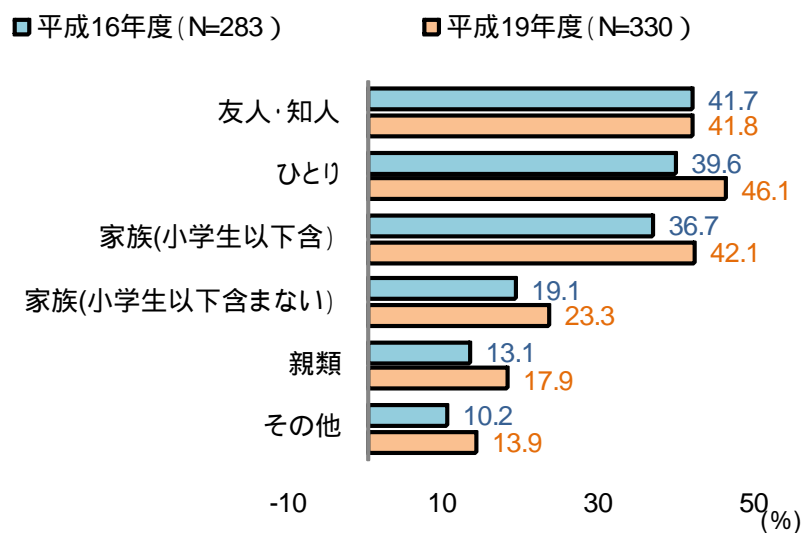


以下は「ある」と答えた人の返答

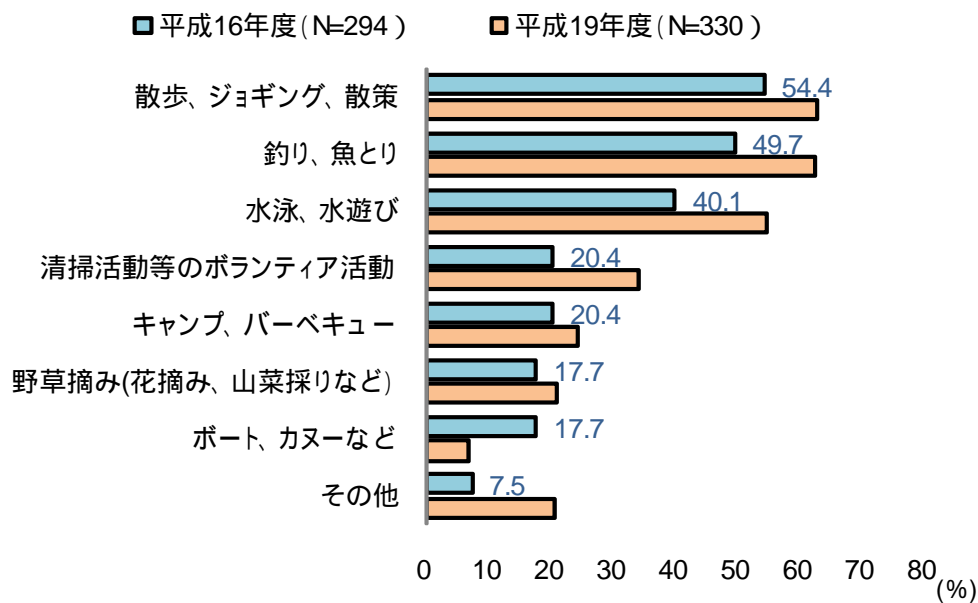
「川に行く頻度」



「誰と出かけたか」



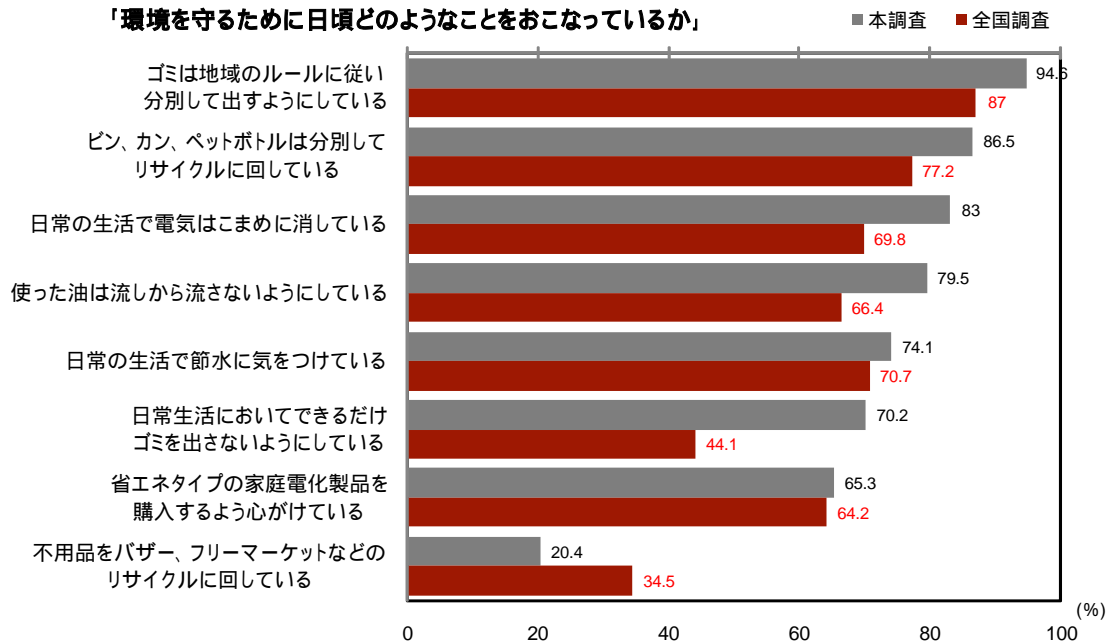
「川で何をしたか」



3 - 2 . 環境を守る行動や意欲

[環境を守るために日頃どのようなことをおこなっているか]

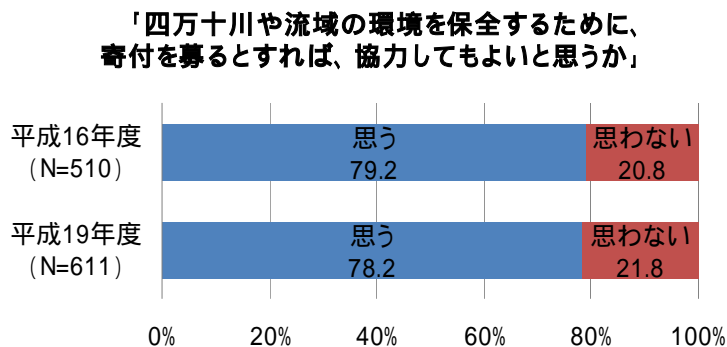
「環境省:環境にやさしいライフスタイル実態調査(平成18年度調査)」と比較すると、比較した8項目中7項目で調査地域の実施率が全国調査の実施率を上回っている。

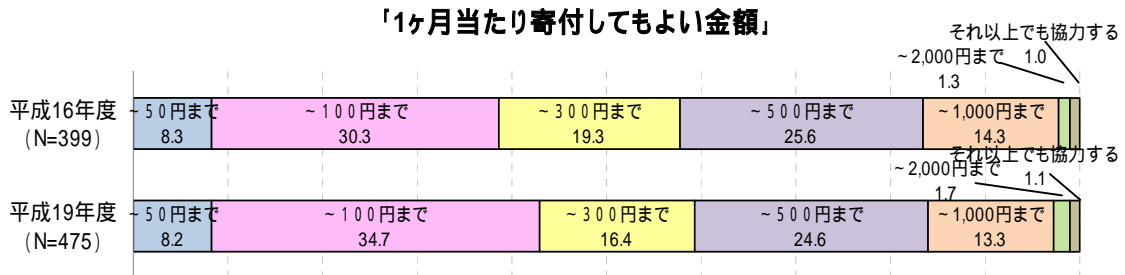


[四万十川や流域の環境を保全するために寄付を募るとすれば協力してもよいと思うか]

「思う」と答えた人は78.2%で、前回調査とほぼ同じ割合であった。また、「思う」と答えた人の57.1%が「1ヶ月あたり300円くらいまで」以上なら協力してもよいと答えた。寄付金額については、前回調査の61.5%より少し下がる結果となった。

しかし、四万十川流域に暮らす人々は、環境にやさしい暮らしを実践していること、さらには自然を守るためには金銭的な協力がある程度は行なってもよいと考えている人が、5割以上存在していることが分かった。





3 - 3 . 居住意思と生活の満足度

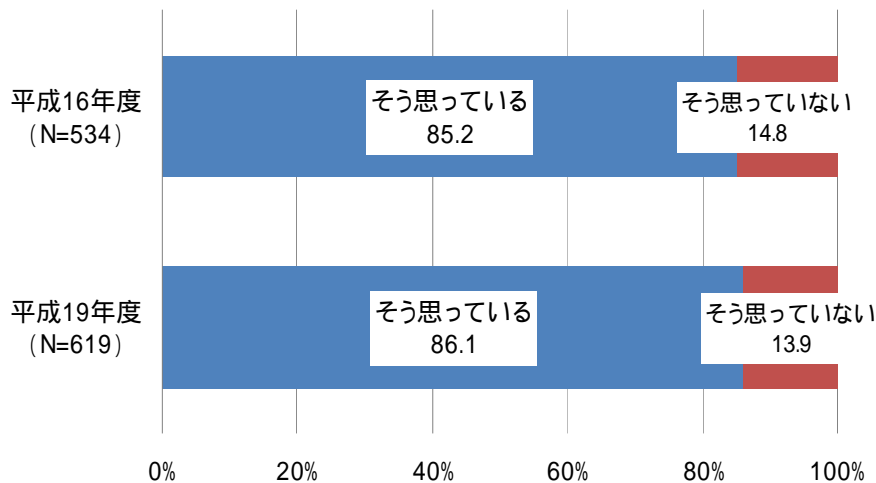
[今住んでいる地域に今後も住みたいと思うか]

「そう思っている」と答えた人の割合は 86.1% で、前回調査の割合より高い。

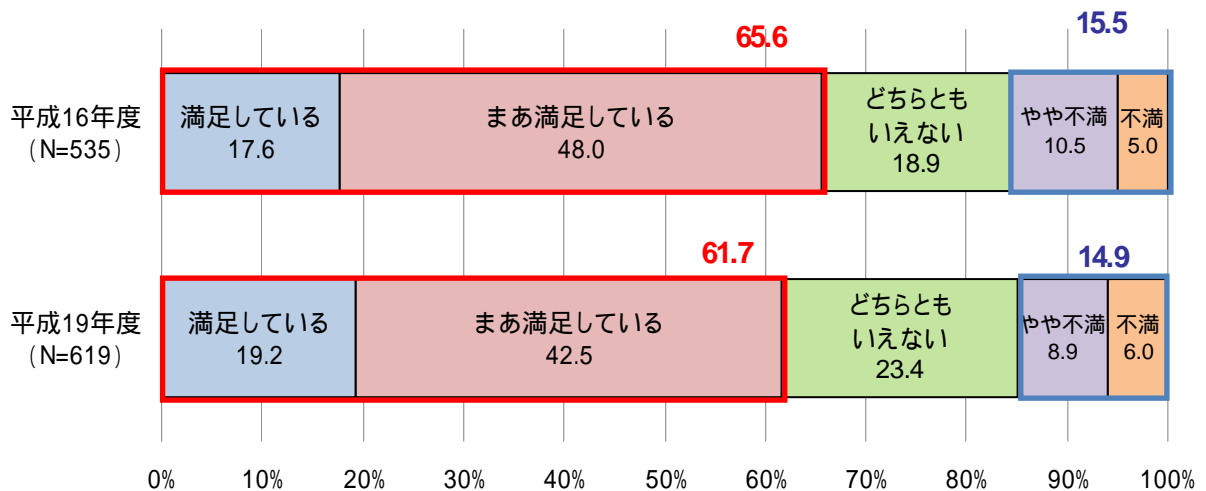
[今住んでいる地域の総合的な満足度]

「満足している」19.2%、「まあ満足している」42.5%、両者をあわせた「満足率」は 61.7% で、前回調査の割合より若干減少した。

「いま住んでいる地域に今後も住みたいか」



「今住んでいる地域の総合的な満足度について」



[全国との比較「内閣府：国民生活選好度調査（平成 17 年度）]

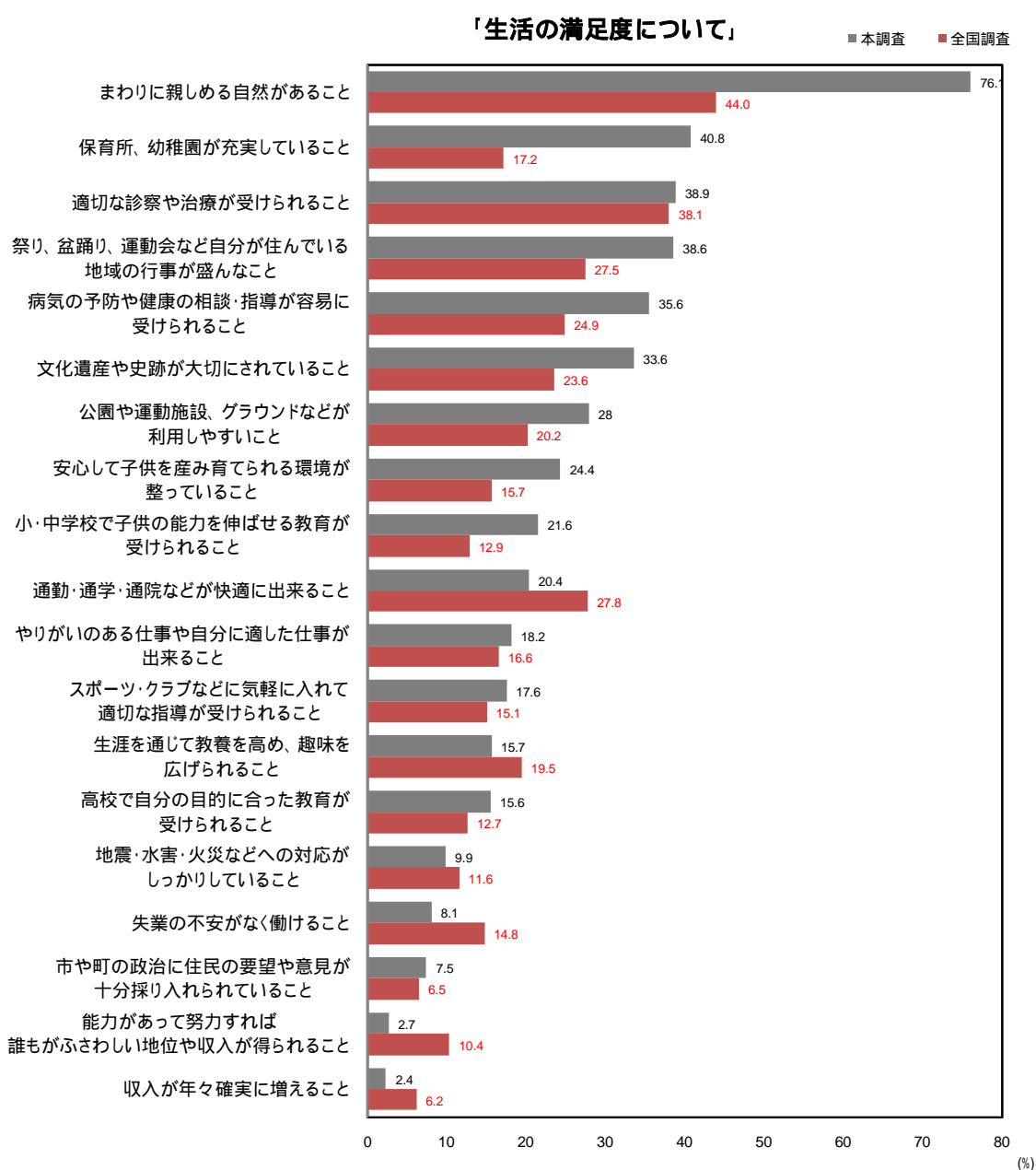
19 項目中 13 項目で調査地域の「満足率」が全国調査の値よりも高くなっている。

満足率の最も高い項目は「まわりに親しめる自然があるか」で 76.1%

満足率が低い項目は「収入が年々確実に増えるか」2.4%、「能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること」2.7%、「市や町の政治に住民の要望や意見が十分取り入れられているか」6.5%

全国調査の「満足率」よりも低い項目は、「通勤・通学・通院などが快適に出来るか」、「生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられるか」、「地震、火災、水害、などへの対応がしっかりしているか」、「失業の不安がなく働けるか」などであった。

前回調査と同様、本調査においても流域に住む人々の居住意思が強く、生活の満足度も概ね高いことが分かる。



4. 概要

4-1. 四万十川との関わり

この1年間に仕事以外で川にでかけたことがあるか(問1)	
全体:「ある」(62.9%)	
性別:男性(74.5%)、女性(53.8%)が「ある」	
年齢別:20歳代で5割、30歳代で7割、40歳~60歳以上で6割	
居住地別:上流域(76.4%)、中流域(58.4%)、下流域(63.1%)が「ある」	
問 1 で あ る と 答 え た 人	頻度(問1-1)
	全体:「月1~2回くらい」以上(43.2%)
	性別:「月1~2回くらい」以上が男性(52.5%)、女性(33.3%)
	年齢別:60歳以上で「月1~2回くらい」以上と答えた人の割合が53.3%と最も高い。
	居住地別:上流域で「月1~2回くらい」以上と答えた人の割合が76.4%と最も高い。
誰とでかけたか(問1-2)	
全体:上位から「ひとり」(41.6%)、「家族(小学生以下の子供を含む)」(38.1%)、「友人、知人」(37.8%の順。	
性別:男性は「ひとり」(53.2%)、女性は「家族(小学生以下の子供を含む)」(42%)と答えた人の割合が最も高い。	
年齢別:20歳代で「友人、知人」(76.5%)、30~40歳代で「家族(小学生以下の子供を含む)」が(59.6%, 54.2%)、50~60歳以上で「ひとり」が(51.5%, 47.5%)で高い。	
居住地別:上流域の「ひとり」(52.8%)、中流域の「家族(小学生以下の子供を含む)」(43%)が高くなっている。	
何をしたか(問1-2)	
全体:上位から「散歩、ジョギング、散策」(63%)、「釣り、魚とり」(62.7%)、「水泳、水遊び」(54.8%)と続く。	
誰と何をしたか(問1-2)	
・性別:	
男性は、「ひとり」で「釣り、魚とり」、「散歩、ジョギング、散策」に行くと答えた人の割合が高い。	
女性は、「家族(小学生以下の子供を含む)」と「水泳、水遊び」、続いて「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」を行うと答えた人の割合が高い。	
・年齢別:	
20歳代は「友人、知人」と「水泳、水遊び」、「キャンプ、バーベキュー」をすると答えた人の割合が高い。	
30歳代は「家族(小学生以下の子供を含む)」と「釣り、魚とり」をすると答えた人の割合が高い。	
40歳代は「家族(小学生以下の子供を含む)」と「水泳、水遊び」、「釣り、魚とり」をすると答えた人の割合が高い。	
50歳代は「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」と「釣り、魚とり」をすると答えた人の割合が高い。	
60歳以上は「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」、続いて「友人、知人」と「清掃活動などのボランティア活動」をすると答えた人の割合が高い。	
・居住地別:	
上中流域は「家族(小学生以下の子供を含む)」で「水泳、水遊び」をすると答えた人の割合が高い。	
下流域は「家族(小学生以下の子供を含む)」で「水泳、水遊び」、「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」をすると答えた人の割合が高い。	

4 - 2 . 環境を守る行動や意欲 (その 1)

環境を守る行動	環境を守るために日頃どのようなことを行っているか (13 項目) (問 2)
	<p>・全体 :</p> <p>(実施率が高い項目 : 上位 3 つ)</p> <p>「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」(94.6%)</p> <p>「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」(86.5%)</p> <p>「日常の生活で電気はこまめに消している」(83%)</p> <p>(実施率が低い項目 : 下位 3 つ)</p> <p>「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」(20.4%)</p> <p>「米のとぎ汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」(25.5%)</p> <p>「よごれのひどい食器はペーパータオルなどでふき取ってから洗っている」(46.3%)</p> <p>今回の調査結果を「環境省:環境にやさしいライフスタイル実態調査(平成18年度調査)」と比較すると、比較した7項目中6項目で調査地域の実施率が高い。反対に実施率が全国調査より低い項目は、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」だった。</p> <p>性別:男女の実施率差が少なくなっている。</p> <p>年齢別:20歳代の実施率が前回調査と比較すると上昇。</p> <p>居住地別:上流域で環境を守る行動の実施率が高い。13項目中9項目は、全流域で前回調査と比較すると実施率が上昇している。</p>
	日頃、流しの排水口や三角コーナーに水切り袋などを設置しているか (問 3)
	<p>全体:「いつも設置している」(61.7%)、「まあ設置している」(15.1%)、両者をあわせた実施率は 76.7%</p> <p>性別:男性の実施率は 74.9%、女性の実施率は 78.2%</p> <p>年齢別:「全く設置していない」は 20 歳代で最も高い (24.2%)、「いつも設置している」は 40 歳代で一番高い。</p> <p>居住地別:上流域での実施率が 82.9%で他流域と比較すると突出している。</p>
	日頃、家庭から出る生ゴミたい肥化に取り組んでいるか (問 4)
<p>全体:「いつもしている」(27.3%)、「まあしている」(12%)、両者をあわせた実施率は 39.3%</p> <p>年齢別:60歳以上で「いつもしている」と答えた人の割合が 34.2%で最も高い。</p> <p>居住地別:実施率は上流域 (60%)、中流域 (42.7%)、下流域 (32.9%)で、上流域の実施率が高い。</p>	
環境に関する活動に参加したことがあるか (問 5)	
<p>全体:「ある」(53.9%)</p> <p>性別:男性 (61.5%)、女性 (47.6%) 前回と比較すると男性の参加率があがる。</p> <p>年齢別:「ある」と答えた人の割合は 30 歳代が最も低く 39.7%、一番高いのは 60 歳以上で 58.1%</p> <p>居住地別:「ある」と答えた人の割合は、上流域 (72%)、中流域 (59%)、下流域 (47.2%)で上流になるにしたがってその割合が高くなる傾向がある。</p>	

4 - 3 . 環境を守る行動や意欲 (その 2)

環 境 を 守 る 意 欲	四万十川やその流域の環境を保全するために寄付を募るとすれば協力してもよいと思うか (問6)
	<p>全体：「思う」(78.2%) 前回より若干割合は低下。 性別：男性(77.4%)、女性(79.2%)で性別による違いは見られない。 年齢別：20歳代の実施率が前回調査と比較すると上昇。 居住地別：上流域で環境を守る行動の実施率が高い。13項目中9項目は、全流域で前回調査と比較すると実施率が上昇している。</p>
思 う と 答 え た 人	<p>1ヶ月あたり協力してもよいと思う金額 (問6-1)</p> <p>全体：「300円くらいまで」以上(57.5%) 性別：「300円くらいまで」以上と答えた人の割合は、男性(56.8%)、女性(57.9%) 年齢別：「300円くらいまで」以上と答えた人の割合は、20歳代で最も高く(70.8%) ついで40歳代(67.8%)、50歳代(61.4%)の順。 居住地別：「300円くらいまで」以上と答えた人の割合は、中流域(79.8%)で最も高く、ついで下流域(75.9%)、上流域(86.7%)</p>

4 - 4 . 通信手段について

	携帯電話を持っているか (問7)
	<p>全体：「持っている」(62.2%)、前回調査より割合があがる。 性別：男性の所有率(69.8%)、女性の所有率(58.1%)で前回同様男性の所有率が高い。 年齢別：「持っている」と答えた人の割合は20歳代が97%で最も高く、年齢が上がるにつれてその割合は減少。60歳代は39.6% 居住地別：「持っている」と答えた人の割合は、上流域(61.3%)、中流域(56.6%)、下流域(66.9%)で前回調査と比較すると、流域による差が縮まる。</p>
持 っ て い る と 答 え た 人	<p>携帯電話でインターネットを利用しているか (問7-1)</p> <p>全体：「いつも利用している」(18.9%)、「まあ利用している」(12.9%)、両者をあわせた利用率は31.8%。 性別：男性の利用率(28.7%)、女性の利用率(34.5%)女性の利用率が高い。 年齢別：20歳代の利用率(68.8%)、30歳代(57%)で年齢が高くなるに従いその割合は低くなる。特に、50歳代以上は急激に低くなっている。 居住地別：上流域の利用率(21.7%)、中流域(28.8%)、下流域(35.2%)で下流に行くに従いその割合は高くなっている。</p>
	自宅のパソコンでインターネットが利用できるか (問8)
	<p>全体：「利用できる」(32.9%)、前回調査よりその割合は増加。 性別：「利用できる」と答えた人の割合は男性(30.6%)、女性(34.7%) 年齢別：「利用できる」と答えた人の割合は20歳代が最も高く66.7%、ついで30歳代の57.4%、40歳代で53.2%年齢の若い世代でその割合が高くなった。 居住地別：上流域(29.7%)、中流域(24.2%)、下流域(38.7%)で下流域での割合が最も高くなった。</p>

4 - 5 . 居住意思と生活の満足度

今住んでいる地域にずっと住み続けたいと思うか(問9)

全体:「そう思っている」(86.2%)。前回調査とほぼ同じ結果。

性別:男性(87.7%)、女性(85.1%)でいずれも高い割合。

年齢別:「そう思っている」と答えた人の割合は、20歳代で前回調査より大幅に増加。最も低いのは30歳代の70.6%、その後年齢とともに増加し60歳以上では90.8%。

居住地域別:上流域(81.3%)、中流域(88.8%)、下流域(85.6%)すべての流域の8割以上の人が「そう思っている」と答えた。

今住んでいる地域を総合的に見てどの程度満足しているか(問10)

全体:「満足している」(19.2%)、「まあ満足している」(42.5%)、両者をあわせた満足率は61.7%で前回調査とその割合を比較すると少し低い。

性別:男性(64.2%)、女性(60.2%)で、性別による違いは見られない。

年齢別:20歳代で最も低く(47.1%)、年齢があがるにつれて「満足率」は高くなる。前回調査と比較すると60歳以上の満足度が77.1%から64.6%に低下する。

居住地域別:上流域(65.4%)、中流域(53.6%)、下流域(66%)で中流域が比較的低い。

満足度の違いは、性別や居住地別よりも年齢による差が大きい。

生活の満足度(18項目)(問11)

全体:

(満足率が高い項目:上位3つ)

「まわりに親しめる自然があること」(76.1%)

「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」(41.9%)

「保育園幼稚園が充実していること」(40.8%)

(満足率が低い項目:下位3つ)

「収入が年々確実に増えること」(2.4%)

「能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること」(2.7%)

「市や町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること」(7.5%)

「内閣府:国民生活選好度調査(平成17年度)」と比較すると、18項目中12項目で全国調査の満足率を上回る。しかし、以下の項目では全国調査の満足率を下回っている。

「通勤・通学・通院などが快適にできること」

「生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること」

「地震・水害・火災などへの対応がしっかりしていること」

「失業の不安がなく働けること」

「能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること」

「収入が年々確実に増えること」

性別:男性の方が女性と比較すると総じて「満足度」が高い。

(男性の満足度が高い項目)

「講演や運動施設、グラウンドなどが利用しやすいこと」

「小・中学校で子供の能力を伸ばせる教育が受けられること」

「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」

(女性の満足度が高い項目)

「日々の買い物など日常生活に不便がないか」

「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」

「道路がよく整備されていること」

年齢別:60歳以上の回答者の「満足率」は22項目中15項目で最も高い。前回調査同様、60歳以上の回答者の評価は高い傾向。特に「適切な診察や治療が受けられること」、「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」については、他年齢より著しく高い。

居住地域別:流域によって「満足度」の違いが見られた。

(上流に行くにつれて「満足度」が高くなる傾向の見られる項目)

「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」

- 「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」
- 「文化遺産や史跡が大切にされているか」
- 「公園や運動施設、グラウンドなどが利用しやすいこと」
- 「地震・水害・火災などへの対応がしっかりしていること」
- 「失業の不安がなく働けること」
- 「市や町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること」
- (下流にいくにつれて「満足度」が高くなる傾向の見られる項目)
- 「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」
- 「安心して子供を産み育てられる環境が整っていること」
- 「高校で自分の目的に合った教育が受けられること」